



小島友実の あの馬の **STORY**

レクランスリール

2023年2月18日・阪神 初勝利のゴール前



きで調整され、1月中旬に帰厩。2戦は距離を延ばし、1月28日の中京ダート1800mで戦に出走しました。

「2戦目の前の頃は息遣いが少しすつくなっていました。それで適距離と思われて、1800mで向かたんだよ。」

その2戦目は17番人気での着でした。

「2戦目でレース内容が一変。精神的

「あいつは、成長した。幅も広いから、本
がいじつかうといつもいたわ」
「うーん」ゴーは昨年11月27日の阪神ダービー
1200メートル戦。気性面や息遣いの面など
が考慮され、短距離での始動。結果はタ
ーメド立ち遅れてしまい、15着でした。
「かねつ派難しき面があの馬ですか」と
ゲームで立ち遅れぬいか「ハーパー」に説明
でもなごかわいくて想定内でした。鞍
事がいた事は良かっただと思つまわ
いのレースの後は、一歩も二歩も

リールがデビュー前からじぶんでも「のんびり」的な変化を遂げてしまつたのが、まだ今後どのように変わらる可能性があるのかなど、小林調教師に向いました。

最初にレクリエーション馬体に大きくな変化があつたのは2歳の春頃でした。「初めてこの馬を見た時は小さすぎた」と言つてましたが、2歳の春から夏頃にかけて

2月18日の阪神ダー一ー1800メートルで初勝利を手にしたシケンハーフコール。8番人気での勝利で、管理する小林真也調教師は、「トド^ウ」から3戦で大きな変わり身を見せてくれたのには正直驚いています」と語っていました。今回もシケンハーフ

「わい」と小林師は話を続けます。
「ハーザンフアーブ空港牧場、ハーザンフ
アームしがらきの皆さんがこの馬に対し
て、辛抱強く向き合ってくれた事も有難
かったです。この馬は誰とも乗れるタイプ
ではないので、厩舎で乗る手を選んでい
ますが、しかるべきは厩舎長クラスの方
が乗つてくれてこんな感じです。この厩舎

要因を語ります。精神面の難しさを抱えた馬ですが、それがじれり事なく成長しました。ねじりの大きさと思つます。トドマー前の調教では、スタート地点に行くと硬直して進んでいかないのが問題でしたが、2戦目の前からそれが無くなりました。からね。それから騎手を変えず、3戦続けて酒井騎手にお願いした事も良かつたのだと思つます。牝馬特有の繊細さを持つこの馬を上手にトドマーと丁寧に乗りこなしたからです。

「一から3戦続けて手綱を取つた
酒井学騎手を背に2番手でレースを進
め、先頭で『』ールを駆け抜けました。
「スタートを決めて酒井騎手が良い位
置を取つてくれました。最後は後ろから
来る馬に差されてしまつかなど感じほし
たが、もつと踏ん張りしてくれました」
3戦目で嬉しく初勝利をマークした

「成長」→調教も云記し出ぐれぬ熱の着
いて調整いわゆる正味いわせはしたがり
ね。使ひてこればいいかがチャンスが来る
ぬじ感」(しおんだ)

今回の電話取材の後、4月16日には1勝クラスの阪神ダート1800メートル戦に出走しましたが、12着。隣の馬が暴れたのを気にしたようで、小林師は「後手を踏んだのがすべてです」と話していました。敗因がわかつてこまかく、今後の巻き返しに期待いたしますね。

成長の余地は大もつて居ます。師がいる馬を語る時「着しく変わった」といふ言葉が多く用いられます。「短期間で変化する馬は走るタイプ」が多いですね。よくかいレクリエーション馬もおひらく勝利できる力を秘めていて、何よりも感じます。今後も引き続き、気性面のケアに注意しながら一騎にやれてきました。個人的には叔の中距離でしなかレースをしてくれるのを見たいです。叔がじぶんなレースを始めたときに比べて、成長したのが増々うれしいです。

質じと感じます。自分で様々な事に気づきながら、精神的に成長していくかと思います。また、初勝利のレースでは後ろの方の馬が来たらもうひと伸びしたみたいに根性があると感じます。まだキヤウアが浅い少し精神的な難しさがあるので調教で攻めきれない部分がありました。でも、経験を重ねれば体力がついてくるでしょう。

「ハシツをねる。」の馬に觸れられたら、すぐいの人が丁寧に向むかひてあた事が実を結んだと思つまう。現段階でのポート・ガルネーの隠してあるじつめか。

Profile

競馬キヤスター＆ライター。現在、ラジオNIKKIETV「中央競馬実況中継」に出演中。「週刊競馬ブック」や「JRA-VANスマホアプリ」にて連載を持つ。ライフルワークは馬場取材で、2015年「馬場のすべて教えます（主婦の友社刊）」を出版。JRAの競馬場の他、最近は地方競馬場の馬場取材も行っている。